

逍遙館長のところ

「令和の御楼門復元完成 もう間近か、のところ」

3月17日 逍遙^{逍遙}

これまで復元建設中だった「御楼門」も、いよいよ完成間近かとなりました。この門は、薩摩藩初代藩主・島津家久が17世紀初頭に建設に着手した居城「鶴丸城」の正門で、その後数回の建替を経て、1844年（江戸時代）に建てられたものの、1873年（明治時代）の火災で焼失。

今回の復元建設はそれ以来となる、いわば「令和の大建替」とも言えるものですが、こんな滅多にない場面に遭遇すると、人間誰しも心昂ぶものがあるのはいつの時代も同じなようで、以前にもご紹介した、当館が刊行している鹿児島県史料の一つ「名越時敏史料」を見ると、著者が泊番（通常は暇だったようですが）勤務の様子を記した日記の中で、建替後の御楼門に上り見物したところ、「誠に高くおそろしく有之候」などと述べています。

この日記が記された日からおよそ175年以上もの歳月が流れた今、皆様方はまたとない歴史的な素晴らしい瞬間にもうすぐ立ち会えることとなります。

◎ 次回の予定 「これからの私たちにとっての「黎明」とは、のところ」

